

いまごろ「美人局」とは

北大大学院生と女子高生が「美人局」の手口で強盗をしたとして逮捕されるという事件が発生しました。今更驚くような話ではありませんが、情けないと思うと同時に、こういうところまで来てしまっている日本の姿に、慨嘆するしかありません。

北大大学院の学生ともあろうものが、というような言い方をするつもりはありません。どんな組織にも問題を起こす人間が発生する可能性はあるのですから、北大もその例外ではないというだけのことです。

ただ、現代社会の中で、どうしてもこういう事件が後を絶たないのか、今後どうすべきかということは、しっかり考えていく必要があります。

二人は、強奪した金を学費や遊ぶ金に充てたなどと供述しているようですが、とんでもないことです。そして、そうした行為がとてつもなくとんでもないことなのだとして理解していないことが空恐ろしくさえあります。

私が子どもの頃は、他人には迷惑をかけるな、騙したりするな。弱いものをいじめてはダメだ。人の役に立つ人になれ、というようなことを親からもよくいわれたものです。

また、人に隠れて悪いことをするな。「天知る、地知る、己知る」他人様には分からなくても自分は知っているだろう。だから、陰に隠れて悪いことはするな、といわれたことを思い出します。

戦後教育の中では、人はどうあるべきか、如何に生きていくべきかというような、道徳教育が、特定の価値観の押しつけであるとして蔑ろにされてきた、というより行われてこなかった。そのなれの果てが、今日の社会の姿なのではないでしょうか。

子どもに対して「やって良いことと悪いこと」を最初に教え、躱けるのは親の仕事（責任）であると思っていますが、残念ながら家庭における教育力の低下は目を覆うものがあります。明星大学教授で師範塾の理事長をされている高橋史朗先生が「親学」を提唱されておりますが、子どもの前にその親を教育しなければならないという現状は、危機的です。

こうした社会の有り様を変えていくためには、迂遠なようですが、家庭や地域と連携しながら、学校教育の中でしっかりとした道徳教育をしていくことが必要だと思っています。（塾頭 吉田 洋一）